説教要旨　「隣人を愛せよ」

ルカによる福音書１０章２５～３７節

イエス様の弟子の１人であった律法の専門家が、イエス様を試そうとして「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」(25)と問いかけました。イエス様がこの問いにどう答えるか、その答えを律法の専門家の立場から批評してやろうというのです。この悪意ある問いに対してイエス様は、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」(26)と問い返されます。神様を愛し、隣人を愛することだと答える彼にイエス様は、「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる」(28)と言われたのです。イエス様を試そうとしていたはずの律法の専門家である彼の方が、いつの間にかイエス様によって批評されてしまっています。そこで彼は、自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」(29)と更に問いかけ、それに答える形で有名な『善いサマリア人』のたとえ話が語られて行きます。

この彼は、専門家だけあって律法のことをよく知っており、律法の本質を見抜き、よく理解しています。イエス様はこの律法の専門家に、どうすれば永遠の命を得られるのか、その手段を教えようとしておられるのではなくて、「あなたはすでに答えを知っているではないか、後はそのように生きられるかどうかだろう？」と問いかけておられるのです。

この問いがそのまま私たちにも向けられています。私たちは、この律法の専門家と同じように、イエス様からの問いによって、自分が神様をも隣人をも愛することが出来ておらず、結局は自分自身のみを愛していることに気付かされるのです。イエス様の弟子としてどのように歩むべきか。その答えを私たちはすでに知らされています。にもかかわらず、そのように歩むことが出来ず、言い訳ばかりしてしまう。そんな情けない私たちをイエス様は、「行って、あなたも同じようにしなさい。」(37)と言って再び送り出してくださるのです。

（２０１９・４・７　説教者：稲垣真実）